

エコアクションを
はじめよう！つづけよう！つなげよう！



ECO LINK AICHI

<http://aichi-eco.com>

平成 30 年 10 月 22 日（月）

愛知県環境部資源循環推進課循環グループ

（あいち資源循環推進センター）

担 当 前田・高木

内 線 3049、3074

ダイヤル 052-954-6233

地域循環圏モデル事業マッチング会の参加者を募集します

愛知県では、平成 29 年 3 月に「あいち地域循環圏形成プラン」を策定し、「食品廃棄物」、「未利用木材」、「家畜排せつ物」などバイオマス資源を地域で循環利用することを目的に、3 つの「地域循環圏モデル事業」の具体化を目指しています。

この度、地域の特性や要望などを踏まえながら、本県では、各バイオマス資源の循環利用についてのモデル事業案を作成しました。

これを受け、モデル事業ごとに事業者や関係団体等が集まり、地域が求めていることや事業者ができることなど、モデル事業の具体化について意見交換する「マッチング会」を次のとおり開催します。

参加費は無料ですので、食品、木材、畜産業界に携わっている方や、新たな循環ビジネスをお考えの方は、是非、御参加ください。

1 各モデル事業案のマッチング会の日程

（1）食品廃棄物「地産地消の推進と一体となった食品循環ループ」

- 食品廃棄物を用いた高付加価値エコフィード事業
- 商店街・小売市場等の中小店舗による食品廃棄物の堆肥化事業

日時：平成 30 年 11 月 21 日（水）午後 2 時から午後 4 時 30 分まで

場所：安保ホール 101 号室（名古屋市中村区名駅 3-15-9 電話：052-561-9831）

（2）未利用木材「森林保全対策等と連携した里山循環圏モデル」

- 地域における小型木質バイオマスエネルギー事業
- 地域連携による新マテリアル（木材・竹）活用事業

日時：平成 30 年 11 月 19 日（月）午前 10 時から午後 0 時 30 分まで

場所：安城市勤労福祉会館 大会議室（安城市御幸本町 5-10 電話：0566-76-2902）

（3）家畜排せつ物「農畜産場等を核とした分散型バイオマス活用モデル」

- 畜産農家と近隣農家による小型バイオガス発電事業
- 食品廃棄物と家畜排せつ物をあわせた集約型バイオガス発電事業

日時：平成 30 年 11 月 19 日（月）午後 2 時から午後 4 時 30 分まで

場所：安城市勤労福祉会館 大会議室（安城市御幸本町 5-10 電話：0566-76-2902）

※ 各モデル事業の詳細は別添資料を御参照ください。

2 マッチング会の内容（各モデル事業共通）

・趣旨説明

地域循環圏モデル事業の目的、具体化に向けた進め方など

・出席者紹介

参加事業者、有識者（アドバイザー）、コーディネーター※、県担当者

※ コーディネーターは、株式会社地域計画建築研究所（アルバック）執行役員
はたなか なおきの畑中 直樹 氏です。

・参加事業者の取組紹介

各事業者の事業概要とモデル事業へ期待することなどを発表

・モデル事業の具体化に向けた意見交換

対象とする資源・地域、調整が必要となる関係者など

3 有識者（アドバイザー）

マッチング会では、各モデル事業に関連する知見をお持ちの方に参加いただき、アドバイスをいただくこととしています。

（1）食品廃棄物「地産地消の推進と一体となった食品循環ループ」

大正大学 人間学部人間環境学科 准教授 ^{おかやま ともこ}岡山 朋子 氏

（2）未利用木材「森林保全対策等と連携した里山循環圏モデル」

名古屋大学 大学院生命農学研究科 教授 ^{ふくしま かずひこ}福島 和彦 氏

（3）家畜排せつ物「農畜産場等を核とした分散型バイオマス活用モデル」

豊橋技術科学大学 大学院工学研究科 教授 ^{だいもん ひろゆき}大門 裕之 氏

4 参加について

（1）参加費

無料

（2）対象者

食品、木材、畜産業界に携わっている方、新たな循環ビジネスをお考えの方

（3）定員

各モデル事業 50 名（定員になり次第、締め切りますが、申込多数の場合、複数名参加の事業者に人数を調整させていただくことがあります。）

（4）申込方法

本文に以下の必要事項を記入していただき、別紙様式の自己紹介シートと合わせて、メールまたはFAXで御提出ください。（複数のモデルに参加することも可能です。）

また、必要に応じて参考資料（会社概要や技術紹介に関する資料）を送付してください。

お申込み受付後、参加票をお送りします。参加票がない方は参加いただけませんので御了承ください。また、提出いただいた自己紹介シート・参考資料はマッチング会の「参加事業者の取組紹介」で活用します。

なお、自己紹介シートは県資源循環推進課 Web ページからダウンロードできます。
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/junkan/matching2018.html>

<必要事項>

件名は「地域循環圏モデル事業マッチング会参加」とし、本文には【事業所名】
【所属】【参加者役職・名前】【電話番号】を記載してください。

(5) 申込期限

平成 30 年 11 月 15 日 (木) 午後 5 時 (必着)

※当日の参加は受付いたしません。また、代理の方が出席される場合は、その旨、必ず事前に御連絡ください。

(6) 申込・問合せ先

県委託事業者：(株) 地域計画建築研究所 (アルパック) 名古屋事務所 (担当：植松)

住所：〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 1-27-2 日本生命笹島ビル 17 階

電話：052-462-1030

メール：uemat-yk@arpak.co.jp

F A X：052-462-1061

(7) その他

マッチング会で、参加者の方に「エントリーシート」を配布し、モデル事業への参加の意思や要望等を伺うこととしています (エントリーシートの提出期限は 1 か月後を予定)。

参加者の方の意向を踏まえ、今後、モデル事業に取り組むチーム (事業者、団体、有識者、市町村等で構成) づくりを進めていきます。

5 取材について

内容に事業活動情報を含むため、趣旨説明のみとさせていただきます。

参考

あいち地域循環圏形成プランとは

本県の持つ自動車産業を中心とした厚い産業集積や、全国有数の農業基盤、豊かな森林資源などの多様な地域ポテンシャルを生かした新たな資源循環モデルの展開、循環ビジネスの振興、持続可能な社会を担う人材の育成や資源循環に関する情報の発信などの取組を、多様な主体との連携の下で進め、「循環の環」が重層的に展開する「地域循環圏」を実現させ、循環型社会の形成を目指す計画です。

あいち地域循環圏形成プランについては、以下の Web ページからダウンロードできます。

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/junkan/junkankenkeiseiplan.html>

【地産地消の推進と一体となった食品循環ループ】 自己紹介シート（様式） ※1枚以内にとりまとめてください。

●事業者（団体）名： _____

●関心のあるモデル事業取り組み 現時点での関心について ☒ をしてください。

☐ 食品廃棄物を用いた高付加価値エコフィード事業

☐ 商店街・小売市場等の中小店舗による食品廃棄物の堆肥化事業

●事業者の特徴・取り組み

--

●本モデル事業への期待（取り組みたいことなど）

--

【森林保全対策等と連携した里山循環圏モデル】 自己紹介シート（様式） ※1枚以内にとりまとめてください。

●事業者（団体）名： _____

●関心のあるモデル事業取り組み 現時点での関心について ☒ をしてください。

☐ 地域における小型木質エネルギー事業（コジェネ（ペレット・チップ）・熱利用（竹・木））

☐ 地域連携による新マテリアル（木材・竹）活用事業

●事業者の特徴・取り組み

--

●本モデル事業への期待（取り組みたいことなど）

--

【農畜産場等を核とした分散型バイオマス活用モデル】 自己紹介シート（様式） ※1枚以内にとりまとめてください。

●事業者（団体）名： _____

●関心のあるモデル事業取り組み 現時点での関心について ☒ をしてください。

☐ 畜産農家と近隣農家による小型バイオガス発電事業

☐ 食品廃棄物と家畜排せつ物をあわせた集約型バイオガス発電事業

●事業者の特徴・取り組み

--

●本モデル事業への期待（取り組みたいことなど）

--

地産地消の推進と一体となった食品循環ループ①

食品廃棄物を用いた高付加価値エコフィード事業

うどん屋、パン屋、中小スーパーなどの中小小売業から排出される小麦系食品廃棄物で栄養価の高いエコフィードを作り、豚の飼料とする。

その豚肉をサンドイッチや肉うどん等の具材に利用する。

●循環する物

食品廃棄物 → 飼料（エコフィード） → 食肉

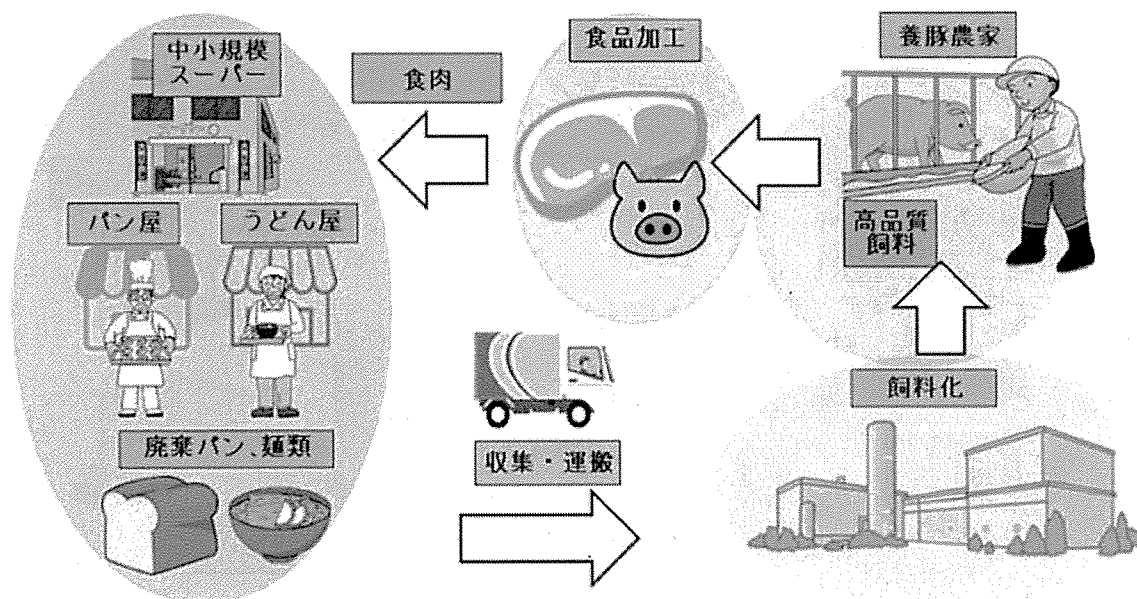
●解決する課題・メリット

- ・これまで焼却処理されていた食品廃棄物を有効利用
- ・中小小売業の有効利用を促進

●想定される主体

飲食店、スーパー、食品流通業者、食品リサイクル事業者（飼料化）、
廃棄物収集運搬業者、飼料メーカー、畜産農家、プラントメーカー、
各関係団体など

イメージ図



商店街・小売市場等の中小店舗による食品廃棄物の堆肥化事業

商店街や小売市場等の小売店や飲食店から排出される食品廃棄物を集中的に回収し、堆肥化する。その肥料を農家に利用してもらい、農作物を商店街等で販売する。

●循環する物

食品廃棄物 → 肥料・堆肥 → 農産物（野菜等）

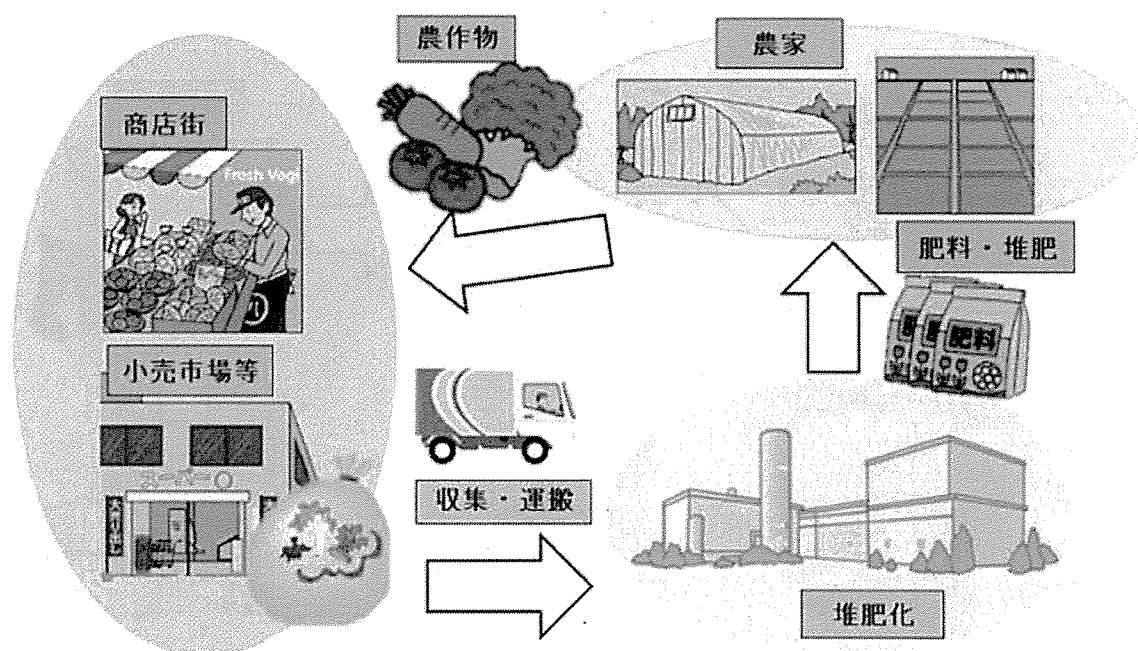
●解決する課題・メリット

- ・これまで焼却処理されていた食品廃棄物を有効利用
- ・遅れている中小小売業の有効利用を促進

●想定される主体

商店街・小売市場、中小スーパー、食品リサイクル事業者（堆肥化）、
廃棄物収集運搬業者、農家、プラントメーカー、各関係団体など

イメージ図



地域における小型木質バイオマスエネルギー事業

林地残材や製材過程で発生する端材、たんころ（根本部分）など活用されていない木材や竹材をチップ・ペレット化し、小型バイオマス発電・熱供給施設で電気と熱を作り、地域の温泉施設、農業施設等で利用する。

●循環する物

間伐材・林地残材・製材くず等 → ペレット・チップ

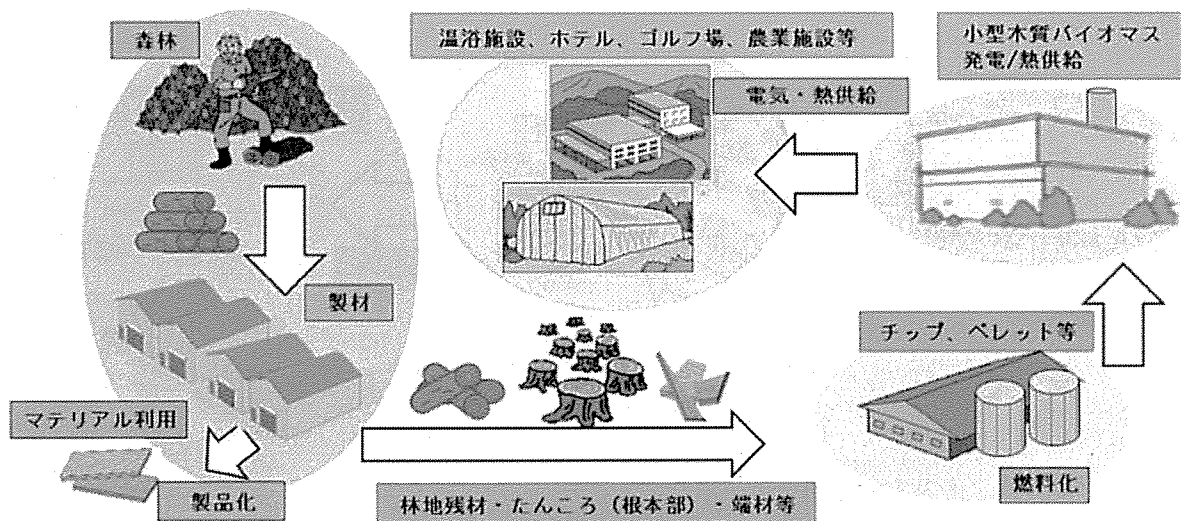
●解決する課題・メリット

- ・林地残材・未利用木材の解消、森林産業における仕事の創出
- ・再生エネルギー事業の構築

●想定される主体

林業事業者、木材製造・加工業者、建築工事事業者、住宅関連事業者、温泉施設、農家、観光施設、電力会社、プラントメーカー、各関係団体 など

イメージ図



地域連携による新マテリアル（木材・竹）活用事業

間伐材のほか、森林整備が進み、利用が可能となった低木を活用し、建物の内装・外装といった建材のほか、文具、アロマなど新たなマテリアル利用を進める。

●循環する物

間伐材・林地残材・製材屑・低木・竹等 → マテリアル商品

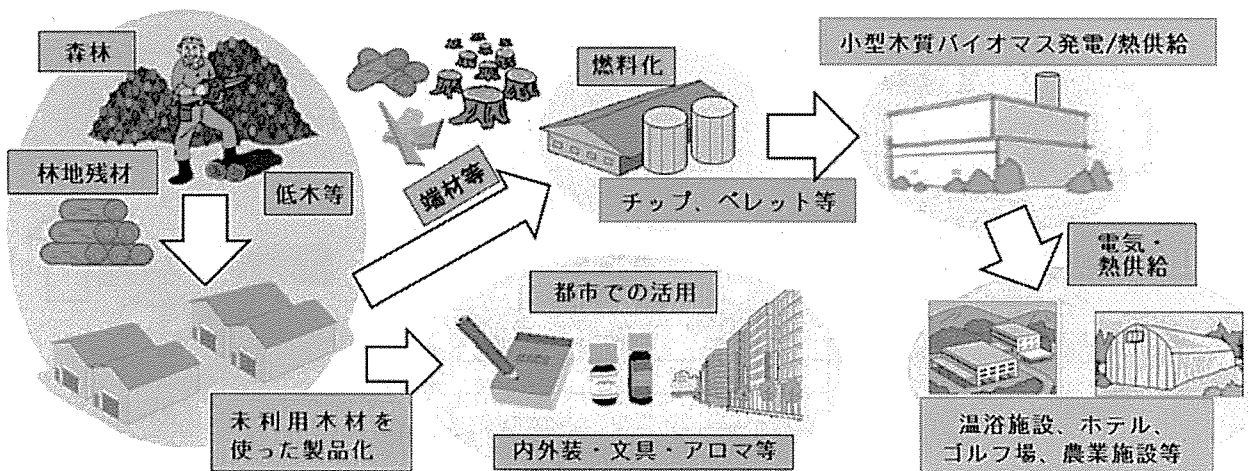
●解決する課題・メリット

- ・林地残材・未利用木材の解消、森林産業における仕事の創出
- ・新たな商品の開発による木材利用量の増加
- ・森林産業の川上から川下の連携による利用されやすい木材の規格化と効率的な木材の収集

●想定される主体

林業事業者、木材製造・加工業者、建築工事事業者、住宅関連事業者、木材製品製造業者、各関係団体など

イメージ図



畜産農家と近隣農家による小型バイオガス発電事業

畜産農家が家畜ふん尿を利用したメタン発酵により発電するとともに、副産物の液肥を近隣農家で利用する。

●循環する物

家畜ふん尿 → エネルギー・液肥 → 液肥を利用した農産物等

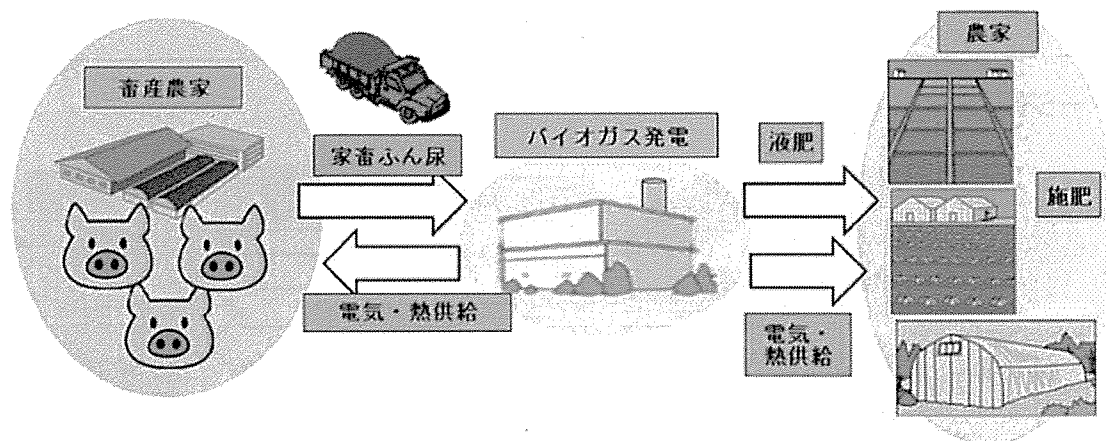
●解決する課題・メリット

- ・悪臭や污水处理の問題を解決
- ・家畜ふん尿の堆肥化以外の活用
- ・再生エネルギー事業の構築

●想定される主体

畜産農家、農家、廃棄物収集運搬業者、プラントメーカー、電力会社、各関係団体など

イメージ図



食品廃棄物と家畜排せつ物をあわせた集約型バイオガス発電事業

飼料化・堆肥化が困難で焼却処理されている食品廃棄物と地域の複数の畜産農家から排出される家畜ふん尿をあわせてメタン発酵し、発電するとともに、副産物の液肥を近隣農家で利用する。

●循環する物

家畜ふん尿・食品廃棄物 → エネルギー・液肥 → 液肥を利用した農産物

●解決する課題・メリット

- ・悪臭や汚水処理の問題を解決
- ・家畜ふん尿の堆肥化以外の活用
- ・現在有効利用が進んでいない食品廃棄物の有効利用
- ・再生エネルギー事業の構築

●想定される主体

畜産農家、食品排出事業者、農家、廃棄物収集運搬業者、電力会社、プラントメーカー、各関係団体など

イメージ図

